

めがせ！ジュニア防災キャプテン U-15のための防災ワークショップ ～未来のまちを守るのはキミたちだ！～ 事業報告書

作成：ママコミュ！ドットコム

1 背景：災害が多発した2018年

大阪市内の各地域では、地域活動協議会や町会をベースに、行政や地域防災リーダー等との連携による防災訓練が実施されていますが、どの地域においても参加者の固定化、高齢化、新たな担い手の確保が長年にわたって課題となっています。

住民の中には、防災は行政や一部の専門家が対策を講じるべきテーマであり、災害が起きれば避難所へ行きさせれば行政がなんとかしてくれると考える人がまだまだ多くいます。しかし、過去の災害で検証されている通り、現実にはそうではありません。

大阪では今年6月に阪神淡路大震災以来となる史上最大の震度5強という大きな揺れを経験し、家屋の倒壊、交通機関の麻痺のほか、通学途上の小学生が命を落とすなど大きな被害が発生しました。

さらに、7月の西日本豪雨により西日本の広範囲で土砂災害が発生するなど災害が多数発生し、防災への意識も急に高まりました。さらには今後高い確率で発生が予想されている南海トラフや上町断層帯を震源とする大地震に備えるためには、子どもや保護者に伝わりやすい手法で防災意識の向上と定着を目指すことが必要であり、子どもの成長過程のなかで、自分や大切な人の命を守る知識と行動力を身につけられる取り組みが必要だと考えます。

2 目的：これからの防災の担い手の育成とコミュニティの絆の強化

防災訓練で学ぶ一連の知識に加えて、実際に自分で地域を歩き、情報を探し出すという具体的な行動を経験することで災害時を想定した行動につながる情報を選択する力を得ることができます。この経験を積み重ねることで、防災への意識の芽生えから発展し、災害時の地域社会の姿とそのときに要支援者となる可能性のある人々の存在への気付きや配慮の必要性、さらには地域防災に関わる多様な人々との協働の大切さを知る機会になると考えます。

本事業では「ジュニア（U15）世代＝小中学生」という防災の新たな担い手となる年代にフォーカスをあて、今はまだ社会や親に守られている子どもが、将来的には地域の担い手として防災だけでなく様々な地域活動の分野において活躍できるよう、長期的な視点で取り組みたいと考えています。自分や大切な人の命を守る知識と行動力を身につけると同時に、未来の地域防災を担う人材の発掘と災害に強いまちづくりに向けた地域のつながりの強化を目指します。

3. 実施内容

【小中学生と保護者を主な対象とするワークショップ形式の講座 全3回】

第1回 ジュニア防災キャプテン認定講座「少年防災士と話そう！子ども目線の防災」

日時：平成30年7月29日(日) 午前10時～12時

会場：クレオ大阪中央 音楽室、クラフト調理室

参加者：合計85名（大人31名、子ども36名、協力スタッフ（防災士他）9名、大阪商業大学学生9名）

内容：（1）少年防災士と話そう！子ども目線の防災のお話

講師：出水季治、坂本紫音、出水眞輝（日本防災士機構認証防災士）

防災士が講師となり、ゲストとして防災士資格を持つ小学生（全国最年少）と中学生（元関西最年少）とともに、参加者の発言を交えながら進行しました。

- ・防災とは？
- ・災害が起きた時、または災害に備えて子どもができること
- ・6月18日の大阪府北部地震発生を振り返り、その時、何をしていたか、誰と一緒にいたか、



どんなことが困ったか、不安だったか などを会場の参加者に質問。

(2) 非常食クッキング

「アルファ化米で作るいなり寿司とフルーツ&ミルク寒天」

講師：南井由希子（料理研究家）

非常食定番のアルファ化米を美味しく食べる方法としてアルファ化米の五目ご飯に調味酢で味をつけ、いなりあげで包むと美味しいいなり寿司ができます。また、非常用ミルクを使ったミルク寒天のデザートは滑らかな口当たりで食欲のない時でも食べやすいなど、災害時にライフラインが使えない場合に活用できるメニューとして、また、回転備蓄（ローリングストック）の実践例として紹介しました。



(3) 防災ランチ「災害とお金、経済の話」

講師：梅田充紀（大阪信用金庫本店執行役員）

金融機関の方から、災害が起きたら世の中がどう変わるか？東日本大震災や熊本地震の場合、各銀行・信用金庫・郵便局などの金融機関は、預金通帳や印鑑、キャッシュカードがなくても本人確認をして10万円まで預金が引き出す措置を行ったこと、災害が起きるとお父さんお母さんの仕事への影響や、お金やモノの流れが大きく変わる事など、子どもにもわかる経済のお話をしていただきました。



第2回 ジュニア防災キャプテン認定講座「災害に役立つ場所を探そう！防災まち探検」

日時： 平成30年8月19日(日) 午前10時～12時

会場： クレオ大阪中央 セミナーホール、クラフト調理室

参加者：合計81名（大人32名、子ども34名、協力スタッフ（防災士他）9名、大阪商業大学学生6名）

内容： (1) 防災まち探検に出かけよう！

講師：出水季治、坂本紫音、出水眞輝（日本防災士機構認証防災士）
災害が起きたとき役立つ場所が身近にたくさんあることを実際に地図を元に歩いて検証しました。

- ・避難場所、避難所
- ・災害時対応自動販売機
- ・災害防災無線スピーカー
- ・かまどベンチ
- ・災害時備蓄倉庫
- ・災害時帰宅支援ステーション

のほか、区役所の協力により普段見ることのできない場所（かまどベンチと備蓄倉庫）など、モデルコース上にあるスポットを地図で確認しながら歩きました。



(2) 非常食クッキング

「アルファ化米で作るチキンライスとディップ・オン・ビスケット」

講師：南井由希子（料理研究家）

非常食定番のアルファ化米を実際に見て触って調理しました。アルファ化米を美味しく食べる方法として、トマトジュースで調理し、チキンライスとして美味しく食べる方法を紹介しました。

また、非常用ビスケット（乾パン）はジャムやホイップクリーム、チョコソースなどをつけると美味しいおやつとしてたべられるため、子どものいる家庭での備えを提案しました。



第3回 ジュニア防災キャプテン認定講座「防災スタンプラリー+ジュニア防災キャプテン認定式」

日時： 平成31年1月13日(日) 午前10時～12時

会場： クレオ大阪中央

参加者：合計73名（大人24名、子ども34名、協力スタッフ（防災士他）9名、大阪商業大学学生6名）

内容：(1) 防災スタンプ&クイズラリー

第2回の防災まち探検で巡った場所に加えて、災害が起きたとき役立つ場所を地図を元に歩き、チェックポイントで出題されるクイズに答えてもらいました。

チェックポイントと出題クイズは次の通り。

- ・避難場所、避難所、簡易トイレ体験（生魂小学校）
… 子どもの一日の標準的な尿量は？
- ・災害時対応自動販売機 … 災害時にどんな役に立つ？
- ・公衆電話（上汐公園内）… 災害伝言ダイヤルの番号とかけ方は？
- ・災害時帰宅支援ステーション（セブンイレブン）… 災害時にどんなことをしてもらえる？
- ・ゴール（クレオ大阪中央）… 手洗いと液体はみがき体験（手指・口腔内の衛生管理）



(2) 非常食クッキング「アルファ化米のお餅入りおぜんざい」

非常食定番のアルファ化米を使ってお餅を作り、小豆の缶詰を使ってぜんざいを作りました。

アルファ化米1袋のお米でお餅が10個以上作れることから、災害時に少ない食糧でも工夫次第で分け合って食べられることと、賞味期限が長い小豆の缶詰を使えば温かい食べ物ができることを伝えました。

小豆が食べられない子どもには簡単に作れるみたらしあんを提供しました。



(3) ジュニア防災キャプテン認定式

全3回のワークショップのうち2回以上の参加実績のある子どもに「ジュニア防災キャプテン認定状」と「My防災リュック」を、今回が初参加の子どもには防災グッズを贈呈しました。

認定者：24名（全3回参加13名、2回参加11名）参加実績は次年度に持ち越し可。



4 事業の成果

地震、豪雨、台風による災害が相次いだ昨年は、子育て家庭の防災への関心も高く、親子が一緒にいない時間帯の発災を想定した行動や災害に関する知識習得に意欲的な参加者が多くありました。

第1回では、全国最年少防災士らと6月の大阪府北部地震の際に、子どもたちが当時感じたことやどんな行動をとったのかなどを振り返り、発災時間によってリスクが異なることなどを学んでいただきました。また、金融機関の方からは災害時の経済についてお話を伺いました。

第2回、第3回では、地域内にある災害時に役立つ場所を探す真夏のまち探検と真冬のスタンプ&クイズラリーを開催しました。公園や公共施設、よく行く場所にも災害から身を守ってくれる機能を持った場所があることや季節によって災害時に必要なものを考える機会を提供し、子ども同士や親子で話し合ったり考えていただく時間をもちました。

どの講座にも定員の3倍の申し込みがあり、会場変更や増席で対応しました。参加者アンケートでも満足度95%の高い評価をいただきました。

今年度認定したジュニア防災キャプテンは24名。来年度も引き続き本事業に参加を呼びかけ、ジュニア防災キャプテンが住んでいる地域で防災の大切さを発信する重要な役割を担い手となることを願い、人材育成に取り組んでいきます。

次項目にも事例があるように、U-15のための防災ワークショップ参加者による情報共有ネットワーク（保護者アカウントによるLINE@）では災害や防災に関する情報共有を継続することにより、子どもたちの防災への取り組みを継続的に支援しています。

5 ジュニア防災キャプテン、その後の活動報告

当事業に2回以上の参加実績のある子どもを「ジュニア防災キャプテン」に認定し、今後継続して防災に関心を持っていくことができるよう双方向コミュニケーションができるプラットフォーム（LINE@）を開設し、随時防災に関する情報を配信しています。会員数24（登録率100%）。

その中で、当事業への参加がきっかけとなり、自分の住む地域にある災害に役立つ場所を探して夏休みの自由研究にまとめた事例がありました。（大阪市内在住の幼稚園年中、小学校2年生のきょうだい）共に夏休みの研究最優秀賞を受賞。



そのほか、よく利用する店舗で見つけた災害時帰宅支援ステーションの掲示について報告が寄せられるなど、日常生活においても防災を意識した行動や情報収集力の向上につながっています。



- ▼主催 ママコミュ！ドットコム
- ▼後援 大阪市教育委員会、天王寺区役所
- ▼助成 公益財団法人大阪コミュニティ財団、（社福）大阪市社会福祉協議会
- ▼協賛 大阪信用金庫、株式会社前田商店、株式会社ボローニャ、雑穀屋やま元、防災専門店MT-NET、日本マクドナルド株式会社、大阪市民共済生活協同組合、にゃん子ん家、株式会社岩名フードサービス、ピタットハウス鶴橋店、株式会社まなびやPLUS（順不同）
- ▼協力 天王寺区役所危機管理課、わたし×防災を科学するI×Bラボ、大阪商業大学中嶋貴子ゼミ、（一社）プラスワン防災、（一財）大阪市男女共同参画のまち創生協会、（株）一心社、（一財）一心寺文化事業財団、（社福）大阪市天王寺区社会福祉協議会